

和み

Vol.15 / 2010
Jan

ちょっと

特集： リハビリテーションに一言!!

～アンケート調査結果報告③～

表紙の写真は成人病センター回復期病棟の絵手紙教室の風景です。

“生活”には様々な要素があります。

食えること、寝ること、家事をすること、仕事をすること、友達と遊ぶこと等々、数えればきりがありません。入院中だって、それは同じです。

入院中だから休むことや、してもらえばかりの生活ではありません。

「あれがしたい」「これがしたい」そんな主体性を引き出す仕掛けがここにはあります。

“よかさろん”の愛称で月に4、5回 病棟で行われています。

七夕や運動会、クリスマスなど、季節の行事のほかに、絵手紙教室や調理教室などが開かれています。

編集・発行

滋賀県守山市守山五丁目4-30 滋賀県立リハビリテーションセンター(成人病センター内)
TEL 077-582-8157 / FAX 077-582-5726 / e-mail ef47@pref.shiga.lg.jp

『私は、リハビリについてはすることに効果があると考えていたのですが、動機付けすることが大事である事も聞いて、なるほどと思いました。その人自身が「しよう」と思う気持ちがあればリハビリは意味をなさないと思いました。』

『総合病院のリハビリ室では、専門のトレーナーもいて下さいましたが、リハビリのやり方を教えて下さるだけでした。「これをこうしていくと、こうなっていくから、そうすると次は、こういう事にチャレンジしていくことができます」というような、患者が目標を持てるようなアドバイスが無かったです。不運だったのでしょうか……。』

『リハビリテーションの言葉で連想するのが、外科的傷害による機能回復訓練を思います。』

『リハビリテーションは高齢者に対するもの、けがや病気からの復帰など、様々な方を対象に行われるものだと思うのですが、経済的な理由などでリハビリを思い通りにできない方々がいるのも事実です。』

『現在、なかなか継続してリハビリが受けられない状況になっている。納得いくまでリハビリが受けられるようにしてほしい。』

『機能回復まで継続して機能訓練は必要である為、限られた理学療法士や作業療法士、言語聴覚士等のリハビリスタッフだけではなく、地域の保健師や役所のスタッフ等が積極的に機能回復訓練のできる教室を開催してほしい。』

『亡くなった祖母は十年間、ベッドと車椅子の生活でした。倒れた後、半身が麻痺し、その後のリハビリをちゃんとしなかったため、体が動かせないままになってしまったと聞いています。「ちゃんとリハビリをしていれば、歩けるようになったのに……」と家族が言っていました。』

『リハビリの職業を希望する人が少なく、将来が不安でいっぱいです。簡単にリハビリテーションを学べるような講座などが市民団体に開講されたり、マンション規模で行うともっと意識が高まるような気がします。』

『リハビリテーションに決められた日数があり、それを超えると継続する事が難しくなる事が残念です。』

『今、実際に親戚が膝の手術をして、そのリハビリ中だが、なかなか思うように治らず苦しんでいる。気分も落ち込むと思うので、患者の気持ちを和らげるような励ましも一緒に専門家さんしてほしいと思います。』

『リハビリという言葉を目にしてポジティブなイメージがあまりないのはなぜかなと思いました。「前向き」な事なのに「大変」「苦労」そんな部分のイメージが強いのかなと思います。』

県民の皆さまから、リハビリテーションに関するご意見をいただきました。(一部抜粋)

『病院で働いていると、「本当にこの人は病院でのリハビリが必要なのか？」と思う方が何人もいます。逆に、ニューズなどをみていると、本当に必要な人がリハビリが受けていなかったり……。』

『リハビリの専門家の指導によりどのように訓練を行えばどのような効果があり、どう回復してゆくかを行う本人も理解することにより、より効果的に機能回復ができると思います。』

『専門医等の指導が適正・的確な方法により、リハビリがどの施設でも変わらず施されること。』

『リハビリテーションは、日常生活の中で自分に関わりのないものだと思っている人が殆どだと思います。』

『友人達や施設に寄せていただく機会に拝見しておりますと、方法が統一されておらず施設の内容(器具等)も様々のように見えます。一人一人症状も違い、個々のケースに合わせて行うことが要求されることは理解しますが、何となく違和感を憶えます。』

『現在、母が膝手術後のリハビリテーションをしている。母を見ていて思うのは、高齢者の場合、理解力の不足・機能回復がなかなか思うようにいかない。このような人々に携わる時、技術だけでなく、双方の信頼とコミュニケーションが技術以上に大切だと感じています。』

『しっかりリハビリが出来る病院の情報欲しい。人の話を聞いていると、病院格差が大きいように思います。』

『骨折等で病院に掛かった場合、入院患者優先で、かなりの機能回復まで理学療法士が面倒を見てくれるが、通院患者については有る程度の回復をもって、後は自宅でするようなシステムになっているようである。特に骨折等をする年代は比較的に高齢者が多く、中々自分ではうまく出来ないで、数年が経過しても元のような機能回復が出来ずに困っておられる方が多いと聞いている。』

『幸いな事に今までに医療機関でのリハビリを受けた事はありませんが、医療機関でのリハビリが必要な時、医療費や交通費にかなりの費用がかかるので、回復しないうちに治療を諦めなければならぬ事もあると思います。やはり、きちんとした専門の医師が通院可能な場所にいらっしやる事と、金銭面で、長期に渡る治療費の負担の軽減となる保健の体制が大切だと思います。』



地域によって格差があるの？

リハビリには期間があるの??

病院のリハビリだけがリハビリなの??

リハビリ専門職の数は足りているの？

みんな不安を抱えているの???

『社会生活自立への足掛かり』

11月に脊髄損傷者を対象に社会生活支援合宿があり、スタッフとして参加しました。

参加者の方々は、今までに公共機関の利用やホテルに宿泊した経験のない方がほとんどということもあり参加前はかなりの不安をもっておられました。

参加者の方は、自らの力で公共交通機関を利用されたり、同じ障害をもちながらも社会にでて働いておられる方と接する機会をもたれました。社会生活支援合宿終了後、一人でショッピングセンターに行かれた方や就労に対する取り組みを始めるなど、社会での活動に対し積極的に取り組む気持ちになられたように思われます。



今回、社会生活支援合宿を通して、病院の中でのリハビリだけでなく、地域の中での社会生活復帰に向けた取り組みや、社会生活復帰へのきっかけを与える環境作りの重要性を感じました。この社会生活支援合宿を通じて学んだことを、一人でも多くの方々の社会生活自立に繋げていけるよう病院スタッフとしての役割を考えていきたいと思います。そして、地域の中で、誰もがしたい事や行きたいところへ行けるようなそんな環境整備、人と人のネットワークが一日も早く行われることを強く願いました。

理学療法士 こばやし



ちょっとリハビリ ご案内

*どなたでもご参加頂ける催しを掲載しています

リハビリテーションセンター 公開講座

『かかりつけ医との関係づくり』

平成22年3月5日(金)

13時30分～16時30分 (受付13時)

場所：近江八幡総合福祉センター ひまわり館

第1部 報告(40分)

「二次障害予防事業を通じた医療機関との関係作り」

講師 稲原 健輔 氏 (京都医健専門学校 理学療法学科 専任教員)

第2部 講演(90分)

「かかりつけ医との関係作り」

講師 玉木 幸則 氏 (自立生活センター メインストリーム協会 副代表)

『高齢者の方に地域でいきいきと暮らしていただくために』

平成22年3月6日(土)

14時～16時 (受付13時30分)

場所：竜王町公民館

第1部 サポーター活動紹介

「めざそう！いきいき長寿のまちづくり」

発表者 竜王町介護予防サポーターのみなさん

第2部 講演

「元気を引き出すリハビリテーション～住み慣れた地域でいきいきと～」

講師 NTT東日本関東病院

リハビリテーション科部長 稲川 利光氏

詳しい内容については、リハビリテーションセンター 事業推進担当

(☎077-582-8157 / FAX077-582-5726) まで お問い合わせください

編集後記

次号では、「自分でするリハビリ」の特集をおこないまーす。



この印刷物は古紙パルプを配合しています。